

Sé Catedral de Lamego

について



写真: Sergey Peterman - Shutterstock

ラメゴ大聖堂の内側と外側の両方には、様々な時代の異なった様式が見られますが、建物は全体として美しさと堂々とした雰囲気を出しています。

塔の窓は、最も古い時期から残されているもので、その繊細な彫刻が施された柱頭は、12世紀のロマネスク様式の建築の好例の一つです。16世紀、司教 D. マノエル・デ・ノローニャの命により上層部分が増築され、彼自身の個人的な印章としての彼の紋章がそこに残されています。素晴らしいファサードが、同世紀に追加されました。ファサードは、三重の門の形で、ルネサンス様式と豪華絢爛たるゴシック様式をまとめ、全体的に美しい外観となっています。大聖堂の内部では、同時期に造られた小さく優雅なアーチのついた回廊に、ゴシック様式からルネサンス様式へと変わる移行期の建築様式の一例が見られます。前述の司教 D. マノエル・デ・ノローニャは1524年に、聖ヨハネ、聖アンソニー、聖ニコラスの礼拝堂と共にこの回廊の建設を命じました。聖ニコラスの礼拝堂の扉は素晴らしい鉄製品で、中には創設者の司教の墓があります。

大聖堂内部の主な装飾様式は18世紀のバロック様式です。中心の大きな天窗は、3つの身廊に優しい光を投げかけています。1738年、ニコラウ・ナソニは、このアーチ型の天井に絵を描くよう依頼されました。鮮やかな色合いと保存状態の良いフレスコ画は、読み書きのできなかつた崇拜者らに旧約聖書内の様々なエピソード（人類創造、原罪、モーセの幼少期、アブラハムの犠牲を始めとする話）を教えました。そしてこの古代教会の内陣には、18世紀の大理石および金彩の施された祭壇画と、1753年製の美しい2台のオルガンもあります。

問い合わせ先

Largo da Sé 5100-132 Lamego

電話: +351 254 612 766 / 254 666 195

Eメール: mlamego@culturante.pt

バリアフリー案内